

## はじめに



西宮市長  
阿部 俊司

私は、平成26年5月に市長に就任して以来、これまで西宮が培ってきた「文教住宅都市」という都市理念を継承し、更に新しい息吹を吹き込むがごとく、刷新すべき内容について指示を出し、西宮の魅力を高めることに努めております。

施策の方向転換を行なったり、新たな取り組みに着手する際に忘れてはならないのは、「市民目線でとらえる」ことであります。行政サイドのみで方向付けしてしまうと、実質的な意味をもたらさない事業が発生する可能性があります。市民の皆さんがどのように感じ、判断されているかを把握するためには、直接ご意見をお聴きすることが肝要です。

その目的を実現する事業として、昨年10月末から11月末にかけて、平成26年度市長対話事業「市政報告・広聴会」を、市内各所で21回開催しました。681人もの市民の皆さんにご参加いただき、直接行政課題について説明させていただいたほか、ご意見を伺うこともできました。

また、20歳以上の市民3,500人に広くご意見をお聴きする「市民意識調査」も、重要な広聴事業であり、昭和29年から継続して実施し、毎回多数のご回答をいただいております。今年度は、「生涯学習」、「自転車利用」、「消費者教育の推進」、「家庭での防火対策」及び「地域コミュニティ」をテーマとして調査を実施しました。ここにまとめました調査結果から市民の皆さまの意識・ニーズを的確に把握し、市民満足度の高い行政運営を進めてまいります。

末尾になりましたが、調査にご協力いただきました市民の皆さま、ならびに調査結果の分析をご指導いただきました関西学院大学政治行動研究センター・山田真裕教授をはじめ、関係者の皆さまに厚くお礼申し上げます。

平成27年2月